日本赤十字臨床衛生検査技師会会誌

日 赤 検 査

The Journal of Red Cross Medical Technologists

創立15周年記念特集

1979 第12号

目 次

〔会長あいさつ〕

創立15周年を迎えるにあたって…… 成田赤十字病院 吉岡 稔 1

〔記念寄稿〕

日赤技師会創立15周年を祝して…… 秋田赤十字病院 根本一蔵 3
日赤技師会結成準備委員会を回顧して…… 岡山赤十字病院 文屋誠二 4
日赤臨床衛生検査技師会の誕生について…… 富山赤十字病院 鶴山 稔 8
日赤臨床衛生検査技師会の歩み…… 長岡赤十字病院 伊豆一雄 9
思い出…… 元武義野赤十字病院 松本英雄 11
15周年によせて…… 元大森赤十字病院 田丸武夫 13

〔記念編纂〕

日赤臨床衛生検査技師会の歴史…… 大森赤十字病院 瀬古治良 15

〔調査報告〕

検査部における人的、物的構成について…… 大森赤十字病院 鈴木兼五郎 18

〔研 究〕

抗核抗体陽性を示した川崎病の1例…… 松山赤十字病院 友近弘美ほか 30
我々の経験した18トリソミー症候群…… 松山赤十字病院 徳永次行ほか 34
血漿蛋白24種の健常値の検討…… 秋田赤十字病院 根本一蔵 37
流産後腟スメアの特徴…… 姫路赤十字病院 小林忠男ほか 43
*Flavobacterium meningosepticum*による
新生児感染例と細菌学的検査成績…… 葛飾赤十字産院 稲葉孝ほか 48
プール血清精度管理15年の歩み…… 福井赤十字病院 清水湛ほか 51

〔雑 感〕…… 58

〔特別寄稿〕

全国赤十字病・産院中央検査室の紹介…… 63

〔報 告〕

東北ブロック日赤臨床検査技師会の歩み…… 秋田赤十字病院 根本一蔵 79
昭和53年度全国赤十字臨床衛生検査技師会
業務連絡研修会議事録要旨…… 事務局 80
四国ブロック活動報告…… 82

日本赤十字臨床衛生検査技師会会員・役員名簿…… 83
日本赤十字臨床衛生検査技師会会則…… 89

日本赤十字臨床衛生検査技士会

<会長あいさつ>

15周年を迎えるにあたって

日本赤十字臨床衛生検査技師会
会長吉　岡　　稔

日本赤十字臨床衛生検査技師会の15周年を迎えるにあたり御挨拶申し上げます。

私達の技師会が設立されましたのは，昭和40年5月2日，第14回日本衛生検査学会が開催された日でありました。学会開催地でありました岡山赤十字病院の皆様の御厚意により会場の御世話をして戴いたのであります。

初代会長 故 斉藤誠二氏，第二代鈴木兼五郎前会長の卓越した指導力と御努力により技師会は色々な問題を乗り越えて今日まで発展してまいりました。

本年は設立以来15周年を迎えることになりますので，昨年の技師会の総会で記念事業を行うことが決定されました。技師会記念総会，永年勤務し退職された諸先輩と設立以来の会員の表彰を行い，「日赤検査」記念特集号を発行することになりました。技師会として設立当時の記録を残しておく時期にきていると判断いたしたのであります。

この特集号は多くの困難を克服して設立に向けて活動された当時の記録と回想が中心になっております。

先輩の方々が赤十字病院の中で，衛生検査技師としての職種の確立と，検査業務の任務を遂行するため，いかに苦労されて技師会の設立に努力されたか当時の回想の記録の中からくみ取って戴ければ幸いです。

技師会設以来毎年開催される東京での研修会と，全国各ブロックで開催されます研修会により，私達は学術の研修とともに赤十字病院間の連絡を密にし，親睦を深めてまいりました。また課題別の検査部の実態調査の集計は，検査部の実態の掌握とともに，設備，施設等の改善のために活用されております。

私達は平和を維持し，人々の苦痛を軽減することを目標とした赤十字の旗のもとに，国民の医療を守る立場にたつ赤十字病院の一員として臨床検査業務を担当してまいりました。

これまで検査部では，臨床検査の発展による業務の増大に対応するために人員の配置と施設，機器の整備を行い，新しい検査の実施に努めてまいりました。検査成績の管理には精度管理を実施し，検体数の増加には自動分析機等の導入により処理し，特殊検査については，特殊検査センターの利用により実施しております。さらに検査成績の管理，連絡に

コンピューターの導入を行って検査部の業務を処理している病院もあります。

私達は臨床検査の充実に努めるとともに，医療技術者の一員として社会の情勢を正しく把握して，臨床検査業務が社会の要望に応えるために努力することが大切であります。

今日ほど救急医療体制の整備が社会的に要望されておる時はありません。特に地域での中核病院となっている赤十字病院に対して要望が強いのであります。既に救急体制をとっている病院もありますが，救急体制の実施については，自治体，医療施設，住民が充分に話し合うことが大切であります。

検査部においても救急医療体制に対応するため，緊急検査の実施にあたっては，必要な人員，施設，器具の整備について充分検討する必要があります。日常検査の充実とともに，各病院の施設規模に対応した緊急検査体制を整備することがこれからの検査部の任務となります。

私達は新しい時代の検査部の確立のために充分検討をして，地域の人々の期待に応える病院の救急医療体制に，緊急検査の任務を遂行いたしたいと思います。

15周年を迎えた技師会は顧問であられる自治医大教授　河合忠先生の御指導のもとに，会員の学術の研鑽とともに，会員相互の親睦を深め，赤十字病院の技師会として特色のある活動を実施いたしたいと存じております。

このためにも全国の赤十字病院検査部に勤務の臨床，衛生検査技師が全員日赤技師会に参加することを期待するとともに，私達臨床，衛生検査技師の全国職能組織である日本臨床衛生検査技師会に加入することを御願い致します。

また前技師会顧問の田中昇先生には，現在千葉県がんセンター研究局長として千葉県下のがん制圧のために御指導され，設立当初の技師会事務局を担当された，当時の赤十字中央病院勤務の池田，上野，川上の諸兄が田中先生を中心にがんセンターで活躍されていることを御報らせして，皆様とともにその御活躍をおよろこびいたしたいと存じます。

15周年記念特集号の発行にあたり，特別寄稿していただきました諸先輩，研究論文等を投稿されました会員各位，特集号編集委員の御協力に心から感謝の意を表するとともに，御協賛いただいた各社の方々に御礼申し上げご挨拶といたします。

＜記念寄稿＞

日赤技師会創立15周年を祝して

東北地区幹事　秋田赤十字病院　根本　一蔵

日本赤十字臨床衛生検査技師会も本年で15周年を迎えました。創立以来の会員であります私共にとりましては，誠に感慨無量のものがございます。

本会の誕生をみましたのも，私達の顧問でありました，現千葉県立癌センター研究所長田中昇先生のお力添えや，今はなき斎藤誠二初代会長先生のご活躍，発起人である伊豆一雄先生ほか諸先生方のご努力によるものと心から感謝と敬意を表します。

初め本社筋では本会が，労働運動に転用されることを危惧されたようですが，顧問の田中先生や初代会長の斎藤先生，ほか諸先生方の奔走が功を奏し，誤解もなく発足をみました。発起人の諸先生方のご労苦に改めて深謝する次第です。

「赤十字は一つ」日赤勤務者が大同団結致しまして，年1回一堂に会し，旧交を暖めつつ親睦を深め，励ましあい，助けあって研鑽に努めることも大変有意義のことと存じます。

現代社会は情報化時代と言われます。医学の進歩と共に医療においても，臨床検査データによる多くの客観情報を背景に正確な診断と適切な情報処理の治療に変っております。そして現在は負荷試験や，ＲＩの活用，さらにＭＥ機器，コンピューターシステムに代表されるように病態の動的変動を捉える医療に発展しております。したがって検査はますます多様化，複雑化の一途を辿り，その重要性をいや増しております。

私共は常日頃，正確な検査データを，より迅速に，そして何時でも対応できるよう要請されております。医療人として臨床検査技師の自覚，誇り，そして責任を銘記すべきであります。

「医療と赤十字」私は赤十字病院に勤務することを大きな誇りに感じつつ，赤十字の心を心として，30余年間秋田赤十字病院に勤務して参りました。日赤技師会は心の支えであり，微力でありますが会の発展のため努力して参りました。今後共，たゆまぬ努力を続ける所存でございます。

日赤技師会創立15周年を祝して，今後ますますの発展を祈念する次第です。

＜記念寄稿＞

日本赤十字臨床衛生検査技師会結成準備委員会を回顧して

岡山赤十字病院 臨床検査部 文 屋 誠 二

昭和40年3月上旬，長岡赤十字病院の検査技師の方々が発起人となり下記の文章が郵送されてきた。（所々省略する）

「……今度，全国赤十字病院に勤務される衛生検査技師を結集して，赤十字病院検査技師会を創設致し度いと日頃から念願致して居るものです。御承知の如く，薬剤師，X線技師等は十数年前より創立し組織を通して活躍して居り，年1回本社において講習並に学会を開催し，地位の向上，会員の相互の親睦と，学術の研鑽を図り発展致して居ります。……吾々は直に会を創設し，1．地位，2．学術，3．親睦，4．その他の事項に向って前進致し度いと考え……是非皆様の御賛同を得た上で一致協力して本社に請願致し度いと思って居りますので，別紙記入捺印の上至急発起人迄御返送ください」。

この文章では，第1に「地位の向上」を検査技師会設立の目的にかかげている。一瞬，当時全国の赤十字系病院の労組活動が活発であったので，これは組合活動に利用しようとしているのではないかと疑念をいだいた。後日解ったことだが私の誤解であった。しかし，その時は疑念が不安となり，当時の事務部長に私の疑念をそのまま話し，又，昭和40年5月の日本衛生検査学会が岡山市で開催される時に会の創設を計画していることも話した。疑念をいだいた私の言葉ですから，事務部長も大変心配して数度本社の黒坂司医務課長と電話，書簡のやりとりがあった。昭和40年4月16日付黒坂医務課長より当院事務部長宛の最終の手紙を要約して紹介する。

「1．専門技術職の者がそれぞれの専門分野で純然たる学術の研究や相互の親睦を図ることを目的とした会は，他の職種にもあり本社衛生部としても社長に諮問し，その他，何かとバックアップして来ているが，衛生検査技師には，この種の会が結成されておらず，従って専門分野での研究の場がないことは残念である。

2．そのため衛生部は，衛生検査技師の研修会を40年度予算に組込んでもらうよう鋭意努力中，その可能性の見とおしはほぼついた。本社が衛生検査技師の研修会を開催する場合，検査技師会の発足が必要かどうか検討の要あり。

3．検査技師会の目的案では，第1に「地位の向上」となっているが，他の職種の会にはない。地位の向上などという職員の待遇改善に関する問題を第1の目標としているようでは，衛生部としてはバックアップするわけにはいかない。元来，かかる会を作ること自体はこれを作る者の都合によるもので，衛生部のタッチすることではない。

しかし，会の発足は既定のことになっていることでもあり学術の研究や会員相互の親睦を図ることを目標にするものであれば，他の職種と類似の会に対すると同様に接遇すべきものと考えますので，右お含みの上この会の純粋な発展に御教導下さいますようお願い申し上げます……」。

私の誤解も一大要素をなしているが，「地位の向上」を一番にかかげた発起人の文章的誤りにより昭和40年3，4月の2カ月間幾多の迂余曲折を経ている。しかし，季節の早春から陽春に向うと同様，私達，全国赤十字関係施設へ勤務している衛生検査技師の会結成準備も発起人の御努力により形を整えつつ，又，中央病院の田中昇先生を通じて本社との話合いもあったようで，日赤結成準備委員も長岡赤十字病院の検査技師以外25名（別紙Ⅰ）も内定された。そし

て「日赤衛生検査技師会会則」の原案も発起人が作成し，5月2日午後1時30分より岡山赤十字高等看護学院にて，前記委員（又は代理人）が参集し日赤検査技師会結成準備委員会を開催することに決定した。

私は第14回日本衛生検査学会（役員会4月30日，学会5月1～2日）の学会準備および実行委員となっており，他の当院技師も学会場（岡山市民会館）より一番近い病院であるため全員何かの役員となっており，その準備のため多忙な日日を送っていた。日赤の結成委員会は全国学会の2日目でもあり，当日私は他の岡山県技師に学会の実行委員の代役を依頼し，赤十字技師会準備委員会に全力投球することにした。

5月2日当日は5月にしては冷たい風が吹いていたが，第1会場である岡山市民会館のベランダで午前10時頃より長岡日赤の技師の方や，広島日赤の斉藤誠二技師（現在…故人）と数名で初めて顔を合せ，発起よりの経緯を私見をまじえながら話し合い，私も3月の誤解を詫びた。その日の昼食をとったかどうか記憶にないが多分飲物だけで食べなかったと思う。午後になり，前以て当院技師に依頼していた準備委員会会場の案内を学会場内へは「スライド」で何回も全国日赤関係技師に知らせ，学会場と看護学院との距離は約200mなので目印を処々にし，学院前には「日赤検査技師会結成準備委員会会場」の看板を立て，数名の当院技師に全国学会より離れて学院の1教室を会場とするため準備してもらった。

結成準備委員会へは全国より約40名（別紙Ⅰ）と，思ったより多数の技師の参集をみた。

そして，本社依頼としてオブザーバーに当院の大野潤(ヒロシ)事務部長が出席され，又，中央病院検査部長の田中昇先生もわざわざ私達の為に出席された。先ず，岡山日赤院長よりの「御挨拶」（別紙Ⅱ……出席技師に配布）の内容を要約して当院事務部長が挨拶した。次に議長に京都第一日赤の高鍋正雄技師が選出され，長岡日赤の若月敏雄技師，その他の技師により現在までの経過報告があり，会の名称は「赤十字衛生検査技師会」とすることに決定した。又，技師会会則（案）の審議も熱心に行われ，会場内は常に活発な質疑応答で終始した。そして初代会長に広島日赤の斉藤誠二技師が選出され準備委員会は無事終了した。その後，大野事務部長が用意した食事を出席者全員に会食して戴く準備を他の広間にしていましたが，殆んどの技師は学会その他の時間に制限されてか帰ってしまい，田中先生，新会長，他数名の技師が会食にのこられたにすぎなかった。会食しながら本社のバックアップによる研修会を40年度中に開催してもらう手続き等話されたように記憶している。

すべて終了後，準備委員会へ出席された方々の署名簿を紛失し，前記の如く正確な出席人員も不明のままになり，当院事務部長より「出席者に会食を馳走する事を前以てお知らせしなかった」，「出席者名簿を紛失した」と大変お叱りを受けた。又，出席者名簿については発起人の方，新会長その他の技師より後日電話や手紙で問合せがありました。私は会食時に出して，誰かが持ち帰ったものと信じていました。しかし開催地の委員として誠に申訳ない事をしたと，若き日の私の失敗の数々を今は後悔と，なつかしい思い出として想起している次第である。

そして，発起人となられた長岡日赤病院の若月敏雄，柴野正，佐藤富子，田中俊夫，五十嵐公，佐藤吉彦，伊豆一雄の諸先生方の御努力に敬意を表します。

（別紙Ⅰ）結成準備委員

岡山	文屋誠二	36歳	山田	森下正一郎	58歳
中央	船藤芳江	40	筑前山田	筒井利光	49
〃	上野哲夫	35	新宿産院	鈴木兼五郎	37
〃	宮城芳得	34	深谷	岡田万吉	45
広島	斉藤誠二	58	姫路	飯塚由松	50
前橋	高橋松治	46	和歌山	小川豊一	55
横浜	半沢三郎	49	福井	清水湛	47
山口	河村昌人	51	秋田	根本一蔵	48
北見	吉田喬	35	成田	吉岡稔	41
高知	高田幸男	44	大森	田丸武夫	48
葛飾	堀切浩	27	浜松	川越功	27
京一	高鍋正雄	57	唐津	堤昭憲	
長野	杉本末治	48			

（別紙Ⅱ）御挨拶

この度第14回日本衛生検査学会が岡山の地で開催されまして皆様には各地から御遠路御出席下さいまして洵に御疲れのことと存じあげます。

過般当院文屋技術課長に対し発起人の方よりこの機会に日赤検査技師会の結成準備委員会を開きたいので御世話を戴きたい旨の依頼がありまして，当院としては喜んで御引受け申上げました次第で御座います。会場及び準備万端不行きとどきでありますが学会引受地のためそれ等の方に時間を費しますのであしからず御諒承下さい。

さて，今回の準備委員として当院の文屋課長も名簿に加えられていますので孤々の声をあげる日赤検査技師会に対し若干の希望を申上げたいと思います。このことは単に開催地の院長としての意見のみでなく本社の意見も含んでのことは勿論であります。

1. 赤十字病院の社会的責任

近時企業の社会的責任が大きく叫ばれて参りました。このことは単に日本のみならず世界的のすうせいであります。

赤十字病院の社会的責任は何んであるかと申しますと近代病院の使命にプラス赤十字病院の使命ということになりましょう。

近代病院の使命は

1）患者に収容と診療看護サービスを提供する。

2）公衆衛生活動に協力する。

3）医師（歯科医師を含む）看護婦其の他医療従事者の教育訓練を行う。

4）医学・医術の研究に寄与する。

以上は一般病院の社会的責任でありますが，赤十字としては更に国際赤十字社の一員として果すべき役割がありまして，日本赤十字社法や定款にうたわれております。これ等に基いては本社は日本赤十字社医療施設規則におりこんで赤十字病院の使命を次の通り示しております。

1）災害時における医療救護

2）医療援護

3）一般医療

4）保健指導

以上各号の他，社長の指示する病院においては看護婦，助産婦，保健婦の養成を実施することになっております。

2. 臨床検査部の役割と技師会

組織医療に於ける臨床検査部の割役は日進月歩の医学の進歩と正比例するものであり，診療に伴う病名の決定或は診定のキメテとして今後一層の躍進を必要とする医療チームの花形であると言って決して過言ではありません。従って技術員の方々が臨床検査技術の向上のため自主的に技師会を設けて技術の向上に常に前向きの姿勢で臨まれんとすることには我々大いに歓迎する次第であります。

3. 赤十字技師会の特色

我々が赤十字人であることは今更こと新しく述べるまでもないことでありますが，社会は常に我々の態度を見守っているわけでありまして，赤十字職員として衿恃を失わないことが団体行動をするものとして心掛けなければならないことがらと思います。

以上の観点から今回生れんとする日赤衛生検査技師会も赤十字の他の技術部門の会と同様「純然たる学術研究向上を目的とする会でなければなりません」。このことは検査技師会と言う団体行動の基盤でありましてこれを逸脱してこの会が他の目的のため動くことのないよう御互に自粛されんことを望む次第であります。斯くして会は本社からも又加入病院からも歓迎され，将来の飛躍が約束されましょう。

将来幹部となられる皆様の御活躍を祈って御挨拶を終らせて戴きます。

昭和40年5月2日

総合病院岡山赤十字病院

院 長 喜 多 嶋 慎 一

＜記念寄稿＞

赤十字衛生検査技師会誕生について

富山赤十字病院　鶴　山　稔

私は昭和32年8月に就職いたしました。その当時の衛生検査というものは，現在よりもはるかに幼稚なものでした。検査用試薬および技術は，古い専門書，日赤中央病院の郷晃太郎先生，信州大学の金井泉先生，薬学（分析）専門書等が唯一の書籍時代でした。ところで，今日の我々の会を作る気運というものは，医師，薬剤師，看護婦，X線技師，栄養士と，有資格職種のほとんどが，本社の研修会の名のもとに，年1回以上集まり，それぞれの専門分野で，学会発表や，赤十字社の使節等について，研修会がもたれていました。そこで当時組合活動の中で，我々検査室勤務者も，組合大会等を利用して，全国から一同に集る機会もふえて来ました。大会終了後，検査室勤務者が数人集まり，私の試案たるものを話合ったりしていました。

確か昭和34年頃だったと思いますが，全日赤大会の休憩時間を利用して，再度小集会を持ち，この時私が提案者で，長岡日赤，大阪日赤等の仲間と数人で発起人になり，準備を進めました。大会終了後，帰院してみると，当時の中央執行委員（現在富山市内で外科病院開業中）の方が，私に対して，全日赤大会での，君の考えは良いけれども，利用する場所が一部不都合であり，中央執行委員会の中で，なにか不審な点が話題として出たので，今後充分に気をつける様にと，御注意があり，私としては，まったく困ったものだと，考えこみました。しばらくして，長岡，関東，関西，広島日赤の仲間が中心になり，本社に働きかけをしていただき，昭和35年頃だったと思いますが，本社より，衛生検査技師の第一回研修会が本社2階大会議室にて開催される旨各施設長宛に連絡がありました。私もさっそくと馳つけ全国の仲間が笑顔で集まりました。本社の予定された行事も終り，その後に赤十字衛生検査技師会を正式に発足させ，本部は東京都内に置くということで，全員が一致いたしました。私達の職種も，1つの団体に結集出来たことは，誠に意義深いものです。この会は赤十字社があるかぎり，無限に研修会を続けてほしい。今日の医学の中には私達の専門とする分野がなくてはならない時代になって来ました。会員の皆様方と共に，良き専門職として，又，人類の幸福をになう一員として，日々努力を重ねていこうではありませんか。

＜記念寄稿＞

日本赤十字臨床衛生検査技師会の歩み

長岡赤十字病院　伊　豆　一　雄

技師会発足以前の状勢（昭和30年代）

昭和33年に衛生検査技師法が施行され，昭和34年10月第1回目の国家試験が実施されました。

そこで，一応は国家的には認められた職種として，スタートした訳ですが，未だ誕生して日も浅い事であり本社は検査技師に対する認識が殆んどなく，他の職種，薬剤師，X線技師，栄養師の人達と違い全く無視されていました。また，本社だけでなく各々の施設においても同様でした。したがって前記の人達との間には当然格差が生じて来ました。その当時，本社は薬剤師，X線技師，栄養士については年1回本社に招集し，研修会が開かれていました。私達には何時まで待っても，お呼びがかかりません。そこで悩み考えました。ただじっと待つだけでよいのか……。

全国には同じ悩みをもつ検査技師の人達が多勢いるだろうと考えると不安と憤りがつのるばかりでした。

参考までにX線技師法は昭和26年に施行され，衛生検査技師法はそれに遅れる事7年です。

検査技師会創立のため，発起人会を作る（昭和39年）

私達の施設（長岡赤十字病院）の検査技師8名が集り，上記の状勢について色々と討議致しました。その話合の中で次のような事が話されました。

A　このままただじっと待つだけではだめだ。

B　何らかの行動をおこさなくては。

C　全国の仲間と連絡をとるべきだ。

など，多くの意見がだされました。そこで1つの方針が出来ました。全国の病院で働いている技師と相携えて，赤十字衛生検査技師会を作り，内外に我々の存在を明らかにし，その上で会として本社と話合を進めて行く，その為には，私達はよろこんで発起人としての責任を果すことを誓い合い発起人会ができました。具体的には全国90余の施設で働いている検査技師諸兄に呼びかけました。

1. 赤十字衛生技師会を作りたい。
2. 会員名簿への登録。
3. 会規約（案）
4. 発会式予告（岡山学会で）
5. いろいろの問題については技師会が話合をしていく。

大体以上の内容で各施設に発送致しました。

その後，ぞくぞくと返事が寄せられて来ます。北海道から九州まで，回収率は95％。いかに皆さんの関心があったかということが判ります。特に私達を勇気づけてくれたのは，各地区の先輩，同僚諸兄からの過分の賛辞と，物心両面からの協力をおしまない旨の心強い声援が送られて来たことです。発起人としては大変嬉しくて，その行動にあずかって力があったことを明記致します。昭和40年2月までには，発送した殆んどの施設から，賛同の意志表示が出され会員名簿も着々と出来上って来ましたが，順風満帆予定通りに進行しているかに見えましたが，良いことばかりは続きません。何時の時代でも，出る杭は打たれる例……。ご多聞にもれず，2，3の施設から，警戒と疑惑の声が上り初め，本社としてもすておくことも出来ず当病院に対し，発起人の真意を確めるべくクレームがつきました。クレームの内容としては，衛生検査技師会を作る動きがあるが警戒しなければならない。労働組合が医療闘争で力を弱めて来

ている現状の中で，労働組合にかかわる組織ではないか？等のことから速やかに善処を求めた内容と記憶しています。これに対しては，私達は当初から他意はなく，ひたすら，衛生検査技師の存在を本社が他の職種同様に認め，研修，育成に努力するよう強く要望致しました。翌日，事務部長より，明日本社に出向い，発起人の考え方を詳しく説明し，理解を求めるよう，また，発起人は東京中央赤十字病院（現医療センター）検査部長，田中昇先生と同道するよう指示されました。先年退職された若月敏雄氏と二人で直ちに上京し，田中先生をたずね話し合いに入りましたが，先生は，全面的に私達の考え方を支持して下さいました。３名で早速本社で畑衛生部次長，黒坂課長と面談し，私達の真意を開陳致しました。本社としても何ら危惧する処もないと了解してくれました。

これもひとえに田中先生の御尽力の賜と深く感謝しつつ，会談を終りました。

会談後の本社の方針としては，

1. 技師会を作ってもよい。
2. ただし，あくまでも学術優先の会が望ましい。
3. 本社と技師会の窓口は当分の間田中先生とする。
4. 発会式には田中先生が顧問として出席すること。

大体以上の様でした。

その頃から，本社も積極的に動いてくれました。５月の岡山学会に向けて着々と準備も進みましたが，色々のトラブルがありました。

その中でも，特に私達の無智と，不徳の致す処から，岡山赤十字病院に大変な迷惑をおかけ致しました。また，病院挙げての多大な御協力を頂きましたことを私達発起人として忘れることができません。

発会式には全国から50名以上の会員が参加され，岡山赤十字病院で恙なく赤十字衛生検査技師会が誕生致しました。昭和40年５月でした。

あれから数えて15周年を迎えようとしています。今考えると，楽しい事，苦しい事が次々とよみがえって来ます。苦しみの中から早15歳，やがて，少年期から青年期の脱皮が続きます。皆んなでこの技師会を健やかに育てて行きましょう。

<記念寄稿>

思 い 出

元武蔵野赤十字病院 検査課長 松 本 英 雄

私が武蔵野日赤へ奉職したのは昭和25年11月末で，当院が開院して満1カ年を過ぎた頃であった。病床数57,外来患者数400〜500の総合病院である。当時は衛生検査技師の制度も身分も法令化されていた訳ではなく，もちろん検査技師を養成する教育機関もなかった。

私は麻布三連隊附の看護兵として入隊し兵役を終って陸軍軍医学校防疫研究室（陸軍の微生物研究機関）へ就職した。

昭和14年,日支事変が勃発し引続き第二次世界大戦となったため中支那方面（中国の南京）の部隊（中支那防疫給水部）に転属を命ぜられ足掛7カ年外地勤務の後,終戦により昭和21年4月帰還した。その後，今は亡き戦友堀栄太郎氏の紹介で武蔵野日赤に就職した。

防疫給水部に勤務中は微生物について検査や研究的なことが業務で戦争の目的遂行のため役立っているとも思わなかった。武蔵野日赤へ入ってからは陸軍医学校・中支那防疫給水部で習得した知識や技術が役立って検査の仕事も講習会に出たり研究会で教わったり本を読んだりして大過なく過ごした。

その当時の検査で最も印象に残るものは虫卵検査で，蛔虫卵が最も多く鉤虫卵がこれに次いで平均で45〜50%の検出率であった。微生物の検査に使用する培養基も現在のような「カルチアボトル」・乾燥粉末培地・生培地・確認培地等は市販されている訳ではなく使用する培地は全て自家製であり，従って，現在販売されているような研究開発された精製良質なものでなかった。血液平板寒天などは山羊・緬羊を飼育しておいて採血して，それぞれ血液寒天，または「ワ氏」用の血球として使用し，補体は検査の前日，「モル」の心臓穿刺により採血したものを氷室に保存，翌朝血清を分離して使用した。「ワ氏」反応「アンチゲン」も販売されていなかったので，牛肉を購入してできるだけ脂肪分を除いて挽肉器で挽いた後，純アルコールに浸出させ数週間後沪過，この沪液に各種濃度に「コレステリン」を加えて，数種の「アンチゲン」を作り，その各々について陽性血清と予め試験して最も良く反応する「コレステリン」含有濃度のものを「アンチゲン」とした。

戦前は腸内伝染病菌には遠藤氏の培地が広く用いられたが，現在はこれに代って画期的なSS寒天・TCBS・非選択培地としてBTB寒天が使用されるようになり，戦前には腸炎ビブリオ・病原性スタヒロ・病原大腸菌等の検索，同定方法等は確立していなかった。「コレラ菌」に対してはアロンゾン培地，ぢうどんね培地，壁島培地等があるが，コレラの浸入，または流行が赤痢のようになかったため研究室では使用されていたが，実際に検査の目的で使用される機会はなかった。昭和13年上海にいた当時,部隊の同僚が夜間外国租界に遊びに行き，コレラに感染してきて3〜4日後不幸にも病死したことがあるが，この時も遠藤培地を用いて菌を検出した。また,昭和17年上海の南方寧波地方に「ペスト」の防疫に出動したことがあるが，中国ではこの病気のことを黒死病といっていた。死後，2〜3日の埋葬した死体を掘り出して解剖し肝，脾，心の材料を検査室に持ち帰り，アルコール固定後，アルカリ性メチレンブリューで染めて菌の有無を鏡検したが，両端濃染して俵状のものもあったが，殆んどの菌は退行変形したものばかりで直ぐ「ペスト菌」とは決めかねた。同時に，「ラット」2匹に検体の一部を腹腔接種し，遠藤平板・普通斜面培地にも塗布

37℃培養した。翌日斜面に極めて薄い菌苔が発育したので白金耳で釣菌すると粘稠性で糸を引く集落であった。また，検体を接種しておいた「ラット」も翌日の夕刻に死んだので腹腔を開いて肝・心を直接染色鏡検と同時に平板に分離培養した。染めた標本からは細菌学の書籍に見られる写真と全く同じ形態をした俵状で両端濃染し中央が淡染した桿菌を視野全体にみることができた。南京の本隊に引上げて後，この菌株を生物学的・血清学的検査後，「ペスト菌」と同定して華美1号と名付けた。

これらのことは遠い昔の思出として今でも思いだされる。また，忘れることのできないものに昭和35年～36年の2年間にわたる全日赤の「ストライキ」がある。病院の入口に椅子を積み重ね通行をストップして「テント」を張り，医師看護婦その他多数の職員が赤く染め抜いた手拭で鉢巻をして腕を組み，労働歌を歌い，スピーカーで街頭に流し，玄関入口の前庭には水戸，和歌山，その他の日赤より支援にきた赤旗が30～40旗風にたなびいている様はものすごいもので日赤史上の語り草になるであろう。また，この「ストライキ」以後，人事，給与のことも明朗になったことはストライキのおかげである。

RaBAシステム――さらにグレードアップ　比色法に初速度法をプラス
初速度法・比色法臨床化学分析システム
RaBA-SUPER System

〔特　長〕
●比色法と初速度法を1台にセット
●日常検査に必要な生化学検査25項目が測定可能
●操作は簡単。オートブランク機構ですから調節操作はいっさい不要
●例えば、GOT活性測定がわずか数分で完了
●測定値はデジタル表示。プリントアウトも可能
●緊急検査、とび込み検査にも最適
●専用試薬は比色法にユニキットシリーズ、初速度法にユニキットレートシリーズが用意されています。
発売元 中外製薬株式会社
製造元 株式会社 京都第一科学
中外の臨床検査薬・機器
CRa 9125

＜記念寄稿＞

15周年に寄せて

元 大森赤十字病院 田 丸 武 夫

昭和40年4月岡山市において第14回日本衛生検査学会が催された。その春には選抜高等学校野球大会で岡山東高等学校が優勝し，また癌学会も同市で催され，更に日本衛生検査学会が関係担当病院と市を挙げての応援で盛大に行われ，街は活気に溢れていた。当時日本衛生検査技師会のほかにも，全国的に組織を持った各病院間では，縦，横の連絡事項または相互間の医学検査技術の向上の為に独自に検査技師会を持っていたものである。私達日本赤十字病院も全国に93施設のほかに診療所，産院，血液センターを含めば，日本で最も有数の地域病院として医療に貢献していることは国民の方々も充分諒承し，各家庭からの赤十字募金も全国的に普及していることは事実である。

私は第14回の日本衛生検査学会に出張する機会を得たのである。東京を立つ以前に赤十字技師会設立の噂などは全く知らなかったことは事実であった。

日本衛生検査学会も盛大に，また活発な討論等に終始し無事終了し，私達赤十字病院で当学会に出張して来られた技師諸君達は岡山赤十字病院会議室に集合したのである。私はここで始めて全国の赤十字病院の方々とお会いする機会を得た。席上長岡赤十字病院検査部の発言により，赤十字衛生検査技師会設立準備会の計画案を伺ったのである。委員の立案によれば東京に事務局を設置する方向に話題は進んでいったものであった。

当時東京からは大森赤十字病院の私と新宿産院，鈴木兼五郎氏の二人だけであった。私達は非常に困惑した。あまりにも重大で二人だけでは決定しかねる問題なので私達は躊躇したものであった。

ところがこの席に中央病院検査部長田中昇先生がおられたのである。私は先生の御名前を存じあげているものの一度の面識もなく大変失礼したものである。田中先生は一応東京に帰り中央病院の技師諸君とも相談の上協力する旨の言葉をいただいた。同年田中昇先生を顧問として，広島赤十字病院斉藤誠二氏を会長として，中央病院上野哲氏，横浜赤十字病院半沢三郎氏を副会長とした赤十字衛生検査技師会が誕生し，事務局を東京渋谷区日本赤十字社中央病院に置いたものである。会員総数395名と予想通りの人数であった。

またこの設立準備委員会において数々の御援助と御配慮を戴いた岡山赤十字病院長喜多嶋慎一先生，同院事務部長，大野潤氏他職員の方々の厚意は感謝に堪えない次第であった。

第1回の研修会が日本赤十字本社において盛大に行われたのは昭和41年秋であった。

これを機会として関東近辺はもとより各地方の方々と親近の和が芽生えたことは誠に喜ばしいことであった。さて昭和42年横浜赤十字病院半沢三郎氏が退任せられたので不肖，私が副会長の任に当ることになり，上野副会長また中央病院の事務局の方々と共に研修会等の準備に忙殺されたものであった。

昭和45年新宿産院，鈴木兼五郎氏が副会長の任り当り私は会計監査となり，会の健全財政に力をそそいだ。昭和46年斉藤誠二氏は会長の職を辞し，二代目会長に鈴木兼五郎氏がその任に当ることになった。鈴木氏は学識豊かで統率力と説得力を兼ねそなえた，しかも非常に行動力のある立派な方で会長としては誠に申し分ないとおもわれた。

昭和48年に致るや技師会の顧問であり中央

病院検査部長の田中昇先生が退職せられ事務局役員の総辞退があり必然的に事務局は新宿産院に移転したもので，我々役員は新宿に集合する日が増えた。鈴木会長の時代となるや研究検査の発表等のほかに各種アンケート，各施設検査部医療検査機械保有調査，精度管理等手広く，縦，横の連絡等が積極的に行われ誠に有意義で本社衛生部の応援次第に高まったことは大変喜ばしいとおもった。私も再び副会長として会長を補佐したものである。

昭和52年勲五等を叙勲され，また技術者で最も栄与とされている小島技術賞を受賞された前会長斉藤誠二氏が不帰の客となられたのは誠に痛惜に堪えない。さて三代目会長は成田赤十字病院，吉岡稔氏が現在その任に当り，技師会は限りなく前進するものと確信してやまない次第である。

創立15周年を迎えて思い出を綴ったものである。

新発売!!

アミラーゼ測定用

アミラーゼテスト試薬(酵素法)

(原理)

$$\text{Starch} + H_2O \xrightarrow{\alpha\text{-Amylase}} \text{Maltose} + \text{Oligosaccharides}$$

$$\text{Maltose} + \text{Phosphate} \xrightarrow{\text{MP}} \text{Glucose} + \beta\text{-Glucose-1-phosphate}$$

$$\beta\text{-Glucose-1-phosphate} \xrightarrow{\beta\text{-PGM}} \text{Glucose-6-phosphate}$$

$$\text{Glucose-6-phosphate} + NAD^+ \xrightarrow{\text{GPD}} \text{6-Phosphogluconate} + NADH + H^+$$

$$\text{6-Phosphogluconate} + NAD^+ \xrightarrow{\text{6-PGDH}} \text{Ribulose-5-phosphate} + CO_2 + NADH + H^+$$

(包装) 15.5mℓ×10

製造元
Beckman Instruments, Inc.

販売元
極東製薬工業株式会社
〒103 東京都中央区日本橋本町3丁目9番地
電話 東京(270)1641
営業所：大阪・仙台・福岡・札幌